

「大人の愛を信じられる子どもに」

“一つのときは何もかもが初めてだった”で始まるイギリスのミルソンの詩をご存じですか。

“三つのとき私はやっと私になった”という一節がありますが、3歳の子どもの脳の量は、大人の90%に達しています。

4歳までに人間になる仕事の半分以上を、6歳までには、3分の2をやり遂げると言われるくらいすごい時期です。小学校に入学するまでは目に見えない根っ子の部分をしっかり張らせるための教育期です。

インドのダゴールの詩に“人は果実についての食欲のために花を見つけることができなくなってしまった”とあります。

要するに、おいしい結果についての欲張り心を捉え、“根っこや幹、そして目に見えない枝や葉の営みが、やがて花を咲かせ、実を結ぶのに必要なことですよ”と言うことなのでしょう。

今この時期、大人たちから愛され、支えられながら、人を信頼し、心が安定したとき、自分の力で人間になっていくのです。